

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

| | | | | | |
|---------|---|--------|--------|-----------|------|
| 整理番号 | ②-91 | 実施計画番号 | 112 | 事業開始年度 | |
| 事務事業名 | 消費生活教育・啓発活動と消費生活センターの活用促進 | | | 事業終了年度 | |
| 担当課名 | まちづくり支援課 | | | 事務の種類(選択) | 自治事務 |
| 根拠法令等 | 消費者安全法 | | 関連事務事業 | | |
| 背景や経緯等 | 消費社会が多様化する中で、特殊詐欺や、悪質商法等が増加していることから、市民に注意喚起情報を周知しつつ、消費生活相談による業者とのトラブル等に対する助言指導を実施し、安心して暮らせるまちづくりを進める。 | | | | |
| 事務事業の目的 | 消費者が主体的に合理的な消費生活を実践できる体制づくりに努める。 | | | | |
| 実施状況 | 消費生活展については、4カ所で開催し、市民への普及啓発活動を実施した。 | | | | |

【人件費の推移】

| | | 26年度実績 | 27年度実績(見込) | 28年度予定 |
|------------|---------|--------|------------|--------|
| 正職員 | 従事者数(人) | 1 | 1 | 1 |
| | 活動日数(日) | 60 | 60 | 60 |
| | 人件費(千円) | 2,160 | 2,160 | 2,160 |
| 正職員以外(選択↓) | 従事者数(人) | 1 | 2 | 2 |
| | 活動日数(日) | 243 | 243 | 243 |
| 非常勤職員 | 人件費(千円) | 1,798 | 3,596 | 3,596 |

【事業費の推移】

| | 26年度実績 | 27年度実績(見込) | 28年度予定 |
|-----------|--------|------------|--------|
| 事業費合計(千円) | 3,799 | 5,348 | 5,348 |

【指標】

| | | | | | | |
|------|--------|--------|--------------|--------|------------|--------|
| 活動指標 | 活動指標名① | | 消費生活展の実施 | | | |
| | 計算式等 | | 単位 | 26年度実績 | 27年度実績(見込) | 28年度予定 |
| | | | 回 | 4 | 4 | 4 |
| | 活動指標名② | | | | | |
| | 計算式等 | | 単位 | 26年度実績 | 27年度実績(見込) | 28年度予定 |
| | | | | | | |
| 成果指標 | 成果指標名① | | 消費生活センター相談件数 | | | |
| | 計算式等 | | 単位 | 26年度実績 | 27年度実績(見込) | 28年度予定 |
| | | | 件 | 225 | 270 | 300 |
| | | | | 250 | 270 | |
| | | | 達成度(%) | 111% | 100% | |
| | 成果指標名② | | | | | |
| | 計算式等 | | 単位 | 26年度実績 | 27年度実績(見込) | 28年度予定 |
| | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | |
| | | 実績値 | | | | |
| | | 達成度(%) | | | | |

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

| ポイント | | 検証(選択) | 評価 | 点数 | 合計 | 検証の理由 | | | | |
|---|--|--|--|----|----------------|--|---------------|-------|--|--|
| 妥当性 | ① | 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか | A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている | A | 2 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">様々な消費生活問題が多数発生している状況から、その予防策として行政が行う消費生活情報の提供、消費苦情相談や問題解決の支援は必要である。</td> </tr> </table> | 存在意義の見直しの余地 | 0 / 4 | 様々な消費生活問題が多数発生している状況から、その予防策として行政が行う消費生活情報の提供、消費苦情相談や問題解決の支援は必要である。 | |
| | 存在意義の見直しの余地 | 0 / 4 | | | | | | | | |
| 様々な消費生活問題が多数発生している状況から、その予防策として行政が行う消費生活情報の提供、消費苦情相談や問題解決の支援は必要である。 | | | | | | | | | | |
| ② | 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか) | A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない | A | 2 | | | | | | |
| 有効性 | ③ | 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか | A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない | A | 2 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">公民館まつり、道の駅など人手の多い場所を活用して啓発活動を効果的に行っている。</td> </tr> </table> | 成果向上の余地 | 0 / 6 | 公民館まつり、道の駅など人手の多い場所を活用して啓発活動を効果的に行っている。 | |
| | 成果向上の余地 | 0 / 6 | | | | | | | | |
| | 公民館まつり、道の駅など人手の多い場所を活用して啓発活動を効果的に行っている。 | | | | | | | | | |
| ④ | 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか | A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない | A | 2 | | | | | | |
| ⑤ | 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか | A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき | A | 2 | | | | | | |
| 効率性 | ⑥ | 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済 | A | 2 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">1 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">増大する相談件数と広域的対応を行うため、平成27年度から相談員を2人体制とし、効率に対応している。今後は安定的な運用を維持するため、非常勤体制から委託方式などの検討する余地がある。</td> </tr> </table> | コスト削減の余地 | 1 / 6 | 増大する相談件数と広域的対応を行うため、平成27年度から相談員を2人体制とし、効率に対応している。今後は安定的な運用を維持するため、非常勤体制から委託方式などの検討する余地がある。 | |
| | コスト削減の余地 | 1 / 6 | | | | | | | | |
| | 増大する相談件数と広域的対応を行うため、平成27年度から相談員を2人体制とし、効率に対応している。今後は安定的な運用を維持するため、非常勤体制から委託方式などの検討する余地がある。 | | | | | | | | | |
| ⑦ | 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済 | A | 2 | | | | | | |
| ⑧ | 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か | A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済 | B | 1 | | | | | | |
| 公平性 | ⑨ | 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか | A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている | A | 2 | <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr style="background-color: #ffffcc;"> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">市広報、駒らんメール等を通じて消費生活センターの周知に努めており、受益者に偏りは無い。</td> </tr> </table> | 受益者負担適正化の余地 | 0 / 4 | 市広報、駒らんメール等を通じて消費生活センターの周知に努めており、受益者に偏りは無い。 | |
| | 受益者負担適正化の余地 | 0 / 4 | | | | | | | | |
| 市広報、駒らんメール等を通じて消費生活センターの周知に努めており、受益者に偏りは無い。 | | | | | | | | | | |
| ⑩ | 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか | A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき | A | 2 | | | | | | |
| 現在の適性 | | | | | 19 / 20 | 改善の余地 | 1 / 20 | | | |

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

効率性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

消費生活についての相談件数が増大しており、市民の安全安心な生活を守るため、相談体制の充実に努めながら、継続する。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

消費生活相談を実施し、問題解決の手助けを行っていく。また、消費者情報の広報を行い、消費者意識の向上を図る。